



IMS Japan Society

OneRoster国内適用検討部会

OneRoster国内適用検討部会（OneRoster部会） - 2023年度第1回 -

2023/7/20

一般社団法人日本1EdTech協会
OneRoster国内適用検討部会

本日の議題

1. 組織名称の変更、部会主査・副主査、部会事務局について
2. 部会主査より
3. 今年度活動計画について
4. OneRoster Japan Profileの検討
 - ① 令和4年度デジタル庁事業からのフィードバック
 - ② OneRoster Rostering CSV v.1.2.1の適用
 - ③ 校務システム – 学習eポータル間連携でのUUIDの取り扱い
5. OneRoster Japan Profileの国際標準化へ向けて
 - ① 今後のプロセスについて
 - ② 1EdTechへの提案文書（Project Charter）レビュー
6. アクションプランの検討
 - ① 部会活動費・会員交流会（7/28）・1EdTech Japan Conference（8/31 – 9/2）での報告・企画について
7. Slackの移設について

1. 新名称：「一般社団法人日本1EdTech協会」（6月30日開催の定時総会より）
（英語：1EdTech Japan Society、略称：1EdTech Japan）

2. 部会主査・副主査・事務局

1. 主査：藤村 裕一（鳴門教育大学 教員養成DX推進機構長）
2. 副主査：井上 由紀夫（内田洋行）
3. 事務局：藤原 茂雄（日本1EdTech協会）

2. 部会主査より

2023/7/20

日本1EdTech協会

OneRoster国内適用検討部会

3. 今年度活動計画について（案）

1. 活動目標

1. 日本国内におけるOneRosterの社会実践を推進する。
2. 技術標準としてのOneRosterの発展に寄与する。

2. 活動計画

1. 国内普及・推進活動

1. OneRoster の実装・実装支援
2. 日本国内におけるOneRoster利用のとりまとめ（OneRoster Japan Profile）
3. 学習eポータル標準仕様等、国内規格・仕様への提言

2. 技術標準としてのOneRosterへの貢献

1. 1EdTech Consortium OneRoster Working Groupへの参加（1EdTechメンバー）
2. OneRoster Working Groupへの日本からのフィードバック
3. OneRoster Japan Profileの提案

4. OneRoster Japan Profileの検討

2023/7/20

日本1EdTech協会

OneRoster国内適用検討部会

- OneRosterを日本国内で利用する際の、OneRosterの技術標準を補足する取りまとめ
 - 例) ふりがな、いわゆる「外字」の取り扱い
 - 英語で定義されているデータモデルの日本語訳（解釈）
- Japan Profileの記載の例
 - 学年、教科の定義には、APPLICの学校コード、教科コードを使用する。
 - ふりがな、在籍クラスを取り扱うデータ項目を追加する。
 - 学校の識別には文部科学省の学校コードを用いる。学校名に文部科学省学校コードに記載されている名称を用いることを推奨する。
 - 氏名には通称を用いることを推奨する。

【Japan Profile (CSV) の改善点について (1)】

- 固定値でNULLを設定する項目の意図・背景の説明
- users.userIdsの設定値の説明
- クラス・組織情報の永続化
- Japan Profile間でのバージョン互換性の確保
- Japan Profileで必須項目が多い（カナ氏名が入力されていないこともある）
- 一般化と特殊化のバランスが微妙。
- Japan Profileのルールを厳密にValidationする入力側のシステムがあった場合、そのシステムはオリジナルのOneRoster 1.2のコンFORMANCEテストをパスできなくなるのではないか
- 仕様書の書き方がラフである。Japan Profileは差分だけを規定するか、単体で成立させるかのどちらかにしてほしい
- UUIDが1人に対して仮に複数生成された場合でも対応できるような柔軟性を持ってほしい
- データ形式で、すべてを「"」で囲む」はない方がよい -> Excelで開くと「"」が削除されてしまう

【Japan Profile (CSV) の改善点について (2)】

- 学校コードは多少柔軟性を持たせても良い（試用学校コードの許容、など）
- Orgには私立のパターンが必要。（orgs.type, orgs.identifierは何になるのか、など）
- 学習eポータルに合わせ、GUIDではなくUUIDを使用するように変更
- ドキュメントを一本化してほしい
- テストで使える学校コード、自治体コードが欲しい
- 海外展開を視野に入れた場合、学習eポータル標準以外を受けつけない実装よりも、国際規格に準じるが、（学習eポータル）標準モデルのファイルを読み込んだ時により特化した動きをする、という実装をしたい。そのため、データ上で標準モデルかそれ以外かを判定できるしくみがあると良い。さらに、標準モデルのバージョンも含まれると今後の可能性が広がる。
- 電話番号は日本式の指定があっても良い
- 更新履歴や差分情報の整備

【Japan Profile (CSV) の改善点について (3)】

- 各項目に対する設定内容の自由度が高く、実運用での利用が難しい
- 想定されるケースに対する設定やルールを決めていく必要がある
- ドキュメント公開前のチェック（誤記の確認）
- 項目の説明に和訳そのままのものが含まれている
- 1EdTechの仕様変更への迅速な対応と周知
- 1EdTechのOneRosterの正常系データを否定する仕様の定義はやり過ぎである
- org.csvのidentifierとusers.csvのgradesを必須にしてほしい（学習eポータル標準仕様）
- Rolesの必要性が分からなかった。
- Usersの在籍クラス情報がEnrollmentにある情報と重なるため、冗長に感じる
- 各社が何をキーにしてデータを取り込むことを想定しているのかを整理すること
- 各社が提示したサンプルデータをもとに、どのようなデータパターンがあるのかを整理すること

【実装で苦労した点 (CSV) (1)】

- 学校コードが必須でないため、どのように名簿情報を取り込むことを想定しているのかが不明
- gradesが複数のcsvに存在するため、それぞれの違い・使い分けの必要の有無の理解
- 出力仕様の確定が難しい
 - enrollements.roleの管理職 (administrator)
 - roles.roleTypeの利用想定 (どのような場合にsecondaryを出力するのか)
 - 年度・クラス・ユーザの出力対象
 - データモデルの図の多重度
- ツール側に関連しないバリデーションが多い
- shell (bash) で実装したため、入力項目のバリデーションに苦労
- mongodbの標準のcsv出力では全項目をダブルコーテーションで囲むのに追加実装が必要
- csvフォーマットとして1EdTech仕様に準拠していれば問題ない。zipファイルも同様

【実装で苦労した点 (CSV) (2)】

- 検証処理を共通化し、メッセージリソースで管理できるようにしたことで、実装自体は比較的スムーズに行うことができた。
- 一貫校や義務教育学校など校務システム上特殊な登録をしているデータをOneRosterJapan Profileの形式に落とし込むのに苦労した
- Japan ProfileはNGだがOneRosterではOKなのでエラーにしない、というケースが可読性と保守性を落としている
- CSV仕様のドキュメントが複数あるため突合せに苦労した。
- 項目に対するチェック対象が記載内容だけでは認識しづらい。
- Japan Profileに学習ツールの仕様に対してデータ項目が多く、必要項目の洗い出しに苦労
- 運用上の仕様検討が十分になされていないままで実装を開始したため、手戻りが発生
- 実装フェーズ中の仕様変更の発生により、バージョン管理に苦労
- 仕様変更の度に改修が必要になった

【Japan ProfileへのRESTの記載について】

- 入力側と出力側双方の具体事例を示してほしい
- 入力チェックを行う項目や学習eポータル標準に準拠しているOpenAPI定義を取りまとめてほしい
- Japan Profile準拠のOpenAPI定義、および入力チェック項目がほしい
- CSVとRESTでデータ定義を共通化してほしい
- Statusについて、CSV Japan Profileではbulk出力時に空文字になっているが、RESTでは値が必須になっている。仕様の際の統一が望ましい

【実装で苦労した点 (REST)】

- C++のライブラリ・サンプルコードが乏しい
- 1EdTech ConsortiumのOpenAPI定義の把握（サイズが大きい）
- 定義内のanyof+enumの記載が一部のOpenAPI Generatorでコンパイルエラーになる（Generatorでのオプション設定で対応）
- SQL ServerとOneRoster RESTのデータ構造、クエリの相性が悪い。データ構造上、mongodbなどを中間データベースとして選択するのが良い。

【変更点】

- Usersシート内“resources”プロパティを削除

校務システム – 学習eポータル間連携での UUIDの取り扱い

2023/7/20

日本1EdTech協会

OneRoster国内適用検討部会

(参照: 学習eポータル標準仕様 3.00 “userMasterIdentifier(について)”)

https://ictconnect21.jp/ict/wp-content/uploads/2023/03/learning_eportal_standard_V3p00.pdf

【要点】

- 校務システム、学習eポータルを含むシステム・ツール間連携によって構成される「デジタルエコシステム」内で、統一的に取り合うことのできる一意のユーザーIDを定義する
- 一意のユーザーIDのフォーマットにはUUID v4を採用する
- UUID発行の起点は「校務システム」とする

【OneRosterでの取り扱いについて（学習eポータル標準仕様）】

- Users内、“userMaserIdentifier”で取り扱う（学習eポータル標準仕様 3.00では必須）
- OneRosterの各CSVにおける「sourcedId」に使用しても良い

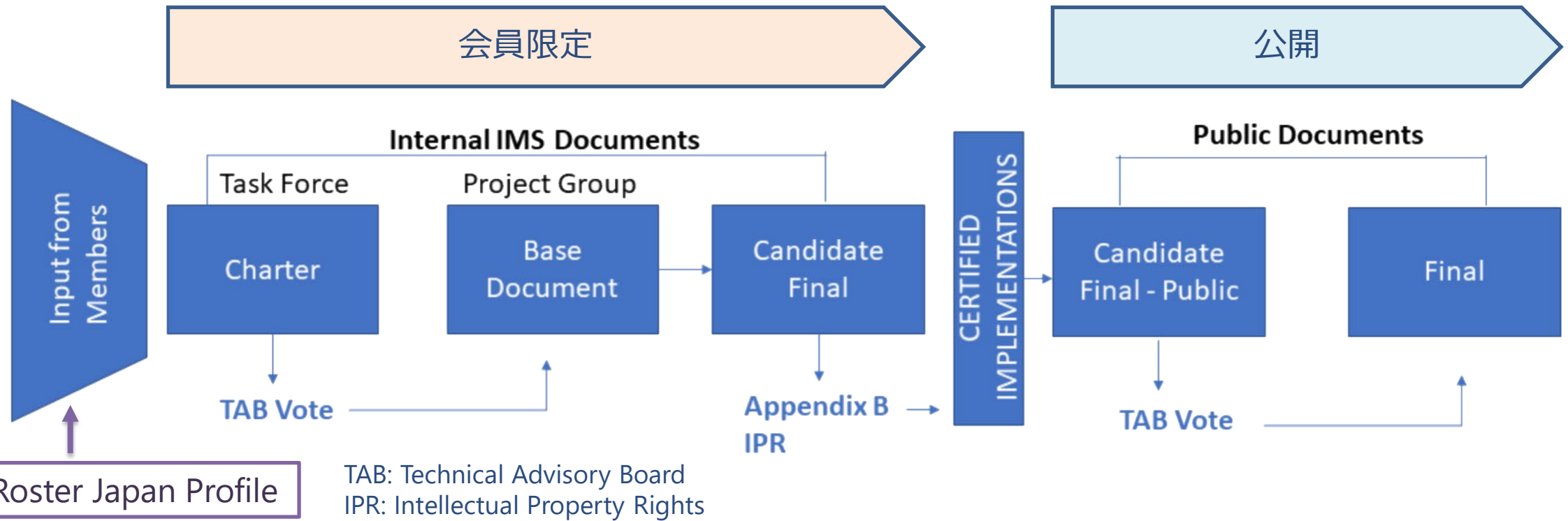
5. OneRoster Japan Profileの国際標準化へ向けて

2023/7/20

日本1EdTech協会

OneRoster国内適用検討部会

5-1. 今後のプロセスについて



- Develop Base Document and conduct internal Project Group review - 2-3 months
- Develop Candidate Final and conduct TAB review - 6-12 months (depending on implementation status)
- Develop Candidate Final Release/ Public Release - 4 months
- Develop Final Specification and conduct TAB vote – 6 months -1 year

出典 : IMS Technical Advisory Board Policies and Procedures, Version 9.5
https://www.imsglobal.org/sites/default/files/imstb_policyv9p5.pdf

1. TF Charter Draft in Japanese 04 Jul 2023 ✓
2. Review by 1EdTech Japan PM Group 07 Jul 2023 ✓
3. Review by 1EdTech Japan OneRoster WG 20 Jul 2023
4. Send draft with English to 1EdTEch 27 Jul 2023
5. OneRoster TF Approval 01 Aug 2023

Milestone	Timeline
OneRoster Japan Profile Task Force Charter Approval	01 Aug 2023
Base Document Introduction to Project Group based on proposal	01 Sep 2023
Internal Draft Release / Conformance Requirements	01 Nov 2023
Project Approval of Candidate Final	01 Dec 2023
Certification Suite Available	01/Feb/2024
Final Document TAB Vote	01/Mar/2024

5-2. Project Charter レビュー

〈質疑応答・意見交換〉

6. アクションプランの検討（案）

- 校務システム > 学習eポータル / 学習ツールのUUIDを含む名簿データ交換の「実証」
（コネクタソン）
 - 事業者間での名簿データ連携の接続検証の実施と実績の管理
 - ケーススタディ・ノウハウの蓄積と共有
 - Japan Profileへのフィードバック
- Japan Profile v.1.2.1版の作成
 - 仕様案作成ワーキンググループの設置
 - ドキュメントの体裁、更新の在り方
 - RESTへの対応
 - Japan Profile版OpenAPI定義の検討
- Japan Profileの国際標準化
 - 1EdTech Consortiumの下にタスクフォースを設置し、Base Documentの作成を進める

6. 部会活動費について

1. 部会の活動に対し、日本1EdTech協会から一定の金額を補助する。
2. 用途は部会の任意（申請制）

6. 会員交流会について

1. 日時：7月28日（金） 13:00 – 15:00

2. URL：

<https://us06web.zoom.us/j/87263348692?pwd=SmJGdk5QQVdaSnJYeEZhcFNoL3gyUT09>

3. アジェンダ

1. 全体報告（45分）

1. Learning Impact Award 報告
2. R4年度デジタル庁事業 報告

2. 部会紹介・最新動向・活動計画（10分x 6）

1. CASE
2. QTI
3. OneRoster
4. LTJ
5. オープンバッジ
6. Caliper

6. 1EdTech Japan Conferenceについて

1. 日時：8月31日（木） - 9月2日（土）
2. オンラインにて開催（ハイブリッド可）
3. 部会発表枠が用意されている。（30分）

7. Slackの移設について

1. 日本1EdTech協会のSlack（1edtechjapan.slack.com）を開設しました。
2. 希望されるメンバーを上記Slack内のLTI部会チャンネル（#LTI部会）へ登録します。
（shigeo.f@imsjapan.org）までご連絡ください。